

教科	国語	科目名	文学国語	単位数	2
学科	全	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	大修館書店『文学国語』				
副教材など	教研出版『クリアカラー 国語便覧』、尚文出版『五訂版 常用漢字クリア』、 浜島書店『論理的に考えるLT現代文1』、啓隆社『速読×多読』、国語辞典				

1. 科目の目的

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

2. 授業の内容と進め方

幅広く継承され、また創造されてきた文学的な文章の学習を通して、次のことを学んでいきます。

- ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、情景の豊かさや心情の機微を表す語句を多く知り、それらについての語感を磨き、語彙力を豊かにしていきます。
- ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、文体や修辞などの表現技法について理解し、使えるようにしていきます。
- ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じた情報を収集し、整理し、表現したいことを明確にし、文章の構成や展開を考え、また、文体、修辞についても考慮して、読み手の関心がえられるように工夫していきます。
- ・文学的な、また、文学的なものに関わるさまざまな種類の文章の内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉え、さらに語り手の視点や場面設定、表現の特色、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方、作品が成立した背景や他の作品との関係などにも理解を深めていきます。さらに作品の内容をしっかりと捉えた上で解釈の多様性、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方について考察し、自らのものの見方、感じ方、考え方を深めていきます。
- ・文学的な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用、我が国の言語文化の特質について理解を深めていきます。

3. 学習する上での留意点

- ・準備するように指示された教材は必ず学校に持参すること。
- ・配布されたプリント類はノートに貼るなどして、わかりやすく、見やすく整理すること。
- ・授業に集中して臨み、ノートをきちんととり、必要なこと、大事だと思ったことは指示されなくてもメモしたり、まとめたりすること。
- ・発表等の活動においては他者の意見にしっかりと耳を傾け、理解に努めるとともに、自らの考えを広げたり深めたりするものとしていくこと。
- ・不確かな言葉があった場合は、必ず辞書を引いて正確な表現や理解に努めること。
- ・家庭学習として出されたものは、わからないことがあれば質問したり、調べたりするなどして、自分の力で言い、提出期限を守ること。

4. 課題等について

- ・授業で取り組んでいる内容について、調べ学習や自分の意見をまとめたり、発表資料をつくらしたりする課題を出すことがあります。
- ・春、夏、冬等の長期休業中に語彙を豊かにし、知識を深め、感性を磨くための課題を出します。

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。

6. 評価の方法

定期考査・小テスト・学習活動への参加の姿勢や授業ノート・提出された課題によって評価する。

《指導計画》 科目名 文学国語

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	授業を受けるにあたっての心構えについて 「飛ぶことを知っている魂」 「十八歳の選択」	○2年生での国語の学習について理解する。 ○作者の随筆も参考にしながら、詩に描かれている状況について考え、また表現のおもしろさについて学ぶ。 ○文章の内容、構成、展開、描写の仕方を的確に捉え、筆者の思いと引用された詩との響き合いを考える。	定期考査、小テスト、教材の準備、学習活動への参加姿勢や態度、授業ノート、作品、課題の提出状況により、総合的に評価する。
	5	速読×多読 演習 中間考査 「旅する本」	○限られた時間で短い文章を読むことで、意識して文章に集中する力を養う。	
	6	速読×多読 演習 期末考査	○作品の内容や解釈を踏まえ、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 ○限られた時間で文章に集中する力を養う。 ○内容や構成、展開、場面設定、描写の仕方などを的確に捉えらるることを通して、「私」の心情の変化を読み取る。	
	7	LT現代文 演習 速読×多読 演習	○読み手の関心が得られるように、文章の構成や展開を工夫する。 ○読書の意義と効用について理解を深める。 ○限られた時間で文章に集中する力を養う。	
	9	「山椒魚」	○作者が作品を通して読者に問いかけていることは何かを、語り手の視点、場面設定の仕方を手掛かりにして、考える。	
	10	中間考査 「私の日本住居論」	○素材を吟味し、すぐれた表現を吟味する。	
	11	浄瑠璃寺の春 「永訣の朝」 期末考査 LT現代文	○情景の豊かさや心情の機微を表す語句、その語感について学ぶ。 ○、詩に用いられている表現技法・言葉の響きについての理解を深め詩に描かれる「わたくし」の行動と心情の変化を捉える。	
三 学 期	1	「巨人の接待」	○限られた時間で文章に集中する力を養う。	
	2	学年末考査 「離さない」	○作者が作品を通して読者に問いかけていることは何かを、語り手の視点、場面設定の仕方を手掛かりにして、考える。 ○作品に描かれる人物の心情を捉える。	
	3		○作者が作品を通して読者に問いかけていることは何かを、語り手の視点、場面設定の仕方を手掛かりにして、考える。	